|  |  |
| --- | --- |
| 日　　　時その単元内容に対するレディネスの状況。数値化 | 令和３年○月○日○曜日　第○校時 |
| 学　年・組 | 第○学年○組 |
| 使用教科書 | 「社会と情報」（○○出版） |
| 指　導　者 | ○○高等学校　　教諭　　○○　○○ |

情報科学習指導案（例）

**Ⅰ　単元の指導計画・評価計画**

１　単元名　情報の活用と表現「情報とメディアの特徴」

２　単元の目標

・社会における情報の重要性を理解する。

・メディアの意味を理解する。

・表現メディアの種類と特徴を理解し，特性を活かした表現を考える。

・情報の信憑性を確認することの重要性を理解する。

３　単元について

（１）教材（題材）観

　　　「社会と情報」の授業をはじめるにあたって，基本となる「情報」や「メディア」という言葉が多様な意味で使われていることを理解させたい。情報やメディアの意味を正しくとらえることからはじめ，それらの特性を理解し，活用できるようにする。その上で，情報が私たちの生活に大きな意味をもつことや，その信憑性や表現方法について普段から意識を高められるようにしたい。

（２）生徒の実態

　　　ほとんどの生徒がスマートフォンを所持し，日常的に情報やメディアに触れており，身近な存在ではあるが，情報やメディアの意味を正しくとらえている生徒は少ない。また，情報の消費に自分たちがどれほどの時間を費やしているのか知らずに生活している生徒も多い。メディアによって使える表現の違いから，情報の見せ方に工夫があることをに知らずに情報を受け取っている。

（３）単元のねらいに迫るための指導上の手立て

　　　情報との関わりを実感し，その重要性を理解できるように，具体例をもって話を進め，イメージを湧かせながら関心を引けるようにする。生徒に自ら考えさせる機会を与え，実習を通して，情報というものが自分たちの生活に密着していることを理解し，表現メディアならではの工夫を考えさせる。

４　単元の評価規準

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 |
| ・社会における情報の役割や価値について関心をもち，情報を読み解く態度を身に付ける。・表現メディアの特性を理解して，表現しようと努める。 | ・情報の信憑性を正しく判断できる。・伝えるべき内容にあわせた表現方法を選択できる。 | ・表現メディアの特性を活かした表現ができる。 | ・情報やメディアの意味や役割を理解できる。・情報の信憑性を確かめる方法を理解する。・表現メディアの特徴を理解する。 |

５　単元の授業計画並びに評価計画（４時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学習活動・内容 | 評価の観点 | 評価方法 |
| 関 | 思 | 技 | 知 |
| 第１時間**（本時）** | ・社会における情報と生活。・情報の特質と価値。・生徒のメディア接触時間の把握。 | ◎ |  |  | ○ | 行動観察，ワークシート |
| 第２時間 | ・情報の信憑性の検討。・情報の信憑性と確かめる方法。 |  | ◎ |  | ○ | ワークシート，テスト |
| 第３時間 | ・メディアという言葉の意味。・表現メディアと伝達メディアの意味と具体例。・文字，画像，動画，音の特徴と活用例。 |  |  |  | ◎ | ワークシート |
| 第４時間 | ・生徒による表現メディアの選択と表現の実習。 | ○ | ○ | ◎ |  | 行動観察，成果物，ワークシート |

◎：記録に残す評価

○：指導に生かす評価

**Ⅱ　本時の計画**

１　本時の目標（評価規準）

・情報の意味と特質を理解する。

・情報には価値があり，その取り扱いには注意が必要であることを理解する。

・「情報」の学習内容の必要性を感じさせ，学習意欲を高める。

２　本時の「関心・意欲・態度」の評価と「努力を要する」生徒への手立て

・「十分満足できる」状況（Ａ）

グループ作業において，自分の意見を述べ，さらにみんなの意見をうまくまとめるなど，作業を主導しみんなをまとめた。

・「おおむね満足できる」状況（Ｂ）

グループ作業において，積極的に自分の意見を述べるなど，作業を積極的に手伝った。

・「努力を要する」状況（Ｃ）と評価した生徒への手立て

グループ作業において，聞かれたことには答えていたが，積極的に発言しなかったなど，言われたことだけをやっていた。机間指導を行うとともに，ワークシートで添削するなど，適切な指導をする。

３　本時のポイント

「情報」が私たちの生活と深く結びついていることを理解させ，「情報」の学びが日常生活や将来の自分に役立つものだという感覚を与えたい。情報技術の発達は，人の関係や社会の制度などを変えてきた。学習を通して人・社会・技術の関わりの中でいかに賢く生きていけばよいのか，その知識とスキルを身に付けることの必要性を理解させたい。また，ものの消費から情報の消費へ進んでいる現在進行形の社会の姿を見せたい。

実習ではテレビゲームやマンガ，雑誌なども例に挙げている。これらは，娯楽や教養を得るために情報を浪費する例である。ものとの対比も含めて，情報と接する時間が長いことを実感させたい。

４　準備するもの

・パソコン，携帯電話，スマートフォン，携帯型音楽プレーヤ，テレビ・ラジオ，ＣＤ・ＤＶＤ・Blue-ray，広告・チラシ，新聞・雑誌・書籍

・電子マネー，ポイントカード

〔実習で利用するもの〕・ワークシート　　・集計表，発表用の模造紙

〔その他〕　　　　　 ・メディア環境研究所「メディア定点調査」<https://mekanken.com/mediasurveys/>

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点（・）および評価（◎，○） |
| 導入５分 | ・本時の目標を把握する。 | ・本時の指導内容を説明する。・情報との関わりを実感し，その重要性を理解する。 |
| 展開１３０分 | ・わたしたちのまわりにあふれる情報を確認する。実習１．平日に平均して，どれくらいの時間それぞれのメディアに触れているかをワークシートに記入する。２．グループを組み，グループ内での最小値，最大値，平均値などを求める。集計結果とそれを見たグループ内での感想などを模造紙に書き込む。３．全グループの集計表を黒板に貼り出し，高校生がメディアとどれくらい接触しているかを確認する。 | ・パソコンやスマートフォン，新聞や書籍など，実際にものを用意し，イメージを湧かせる。・実習を通して，自分の生活と情報との関わりについて見つめさせる。・平均するとどれくらいかということを強調する。また「テレビを見ながら雑誌も見る」ということもあり得るが，それらは別々にカウントさせる。◎【関心・意欲・態度】話し合いがスムーズに進んでいるか確認し，適宜指導する。（机間指導）・私たちが日常的にどれほどの情報を消費しているかを実感させるとともに，今後，情報科の授業でこれらのメディアとの付き合い方も学んでいくことを伝える。 |
| 展開２１０分 | ・情報と私たちの生活・情報の価値と特質 | ・情報は生活に密着しており，判断・娯楽・学習など，さまざまな場面で利用していることを理解させる。・情報には価値があり，ものとは違う特質がある。取り扱いのルールがものとは異なることを伝える。 |
| まとめ５分 | ・学習したポイントを確認する。・自己評価チェックシートを記入する。 | ・本日の学習内容を確認させる。・自己評価の活用を指導する。○【知識・理解】ワークシートが十分にまとめられている。（ワークシート） |